



勝盛豊一先生を悼む

去る一月二十四日、帰宅途中に知った訃報。一月二十三日ご逝去、享年百歳。昨秋、文化の日にお元気な先生とお話した私には信じがたいことでした。取りあえずお通夜の会場、中区寺町は円隆寺に急ぎました。

勝盛先生は、大正十一年広島高等工業学校（のちに同専門学校）にご赴任、主に熱力学、内燃機関学を担当されました。戦時中設立されたグライダー部顧問としてもご活躍になったようで、当時の部員の敬仰は今に及んでおりました。

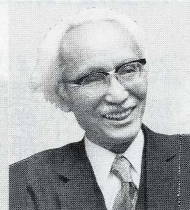
昭和二十年四月、広島市立工業専門学校長兼教授に任命され、学校は七月二十五日の始業式をもって機械科二学級、航空機科一学級の編成で発足しました。しかし旬日後の原子爆弾及び敗戦は、学校の運命を大きく変えたのです。

先生を中心として鳩首相談の結果、国土復旧と産業・経済界の新情勢に即応させるため、学科は、機械、土木及び工業経営に改めて、再発足しました。これらの学科が、現在広島大学工学部の基幹講座として、多数の学生と研究者を育成しているのを見るにつけ、先生の予測の確かさに驚くのみであります。

広島大学開学後は、工学部教授、評議員をお勤めののち、昭和三十二年ご退官。その後、十五年に及び広島電機大学長をされ、それらのご功績により昭和四十三年勲三等旭日中綬章を受けられました。以後は、仏教関係の団体のお手伝いなどをされながら、教え子の開く同窓会を楽しみにしておられました。

グルメ好みで麻雀もお好き、和歌、俳句もたしなまれる先生のご功績を披露し、あわせて御冥福を祈る次第であります。

（名誉教授 片島三朗）



森瀧市郎名誉教授を悼む

森瀧先生は、昭和五年 京都帝国大学文学部哲学科をご卒業になり、昭和六年四月 広島高等師範学校教授に就任され、昭和二十年八月 学徒動員引率中、市内江波で被爆され、右眼を失明されました。その後、戦後の困難を乗り越え、教職の任を全うされ、昭和二十五年 広島文理科大学教授に就任。昭和二十七年 「英国倫理研究」により、文学博士の学位を受けられました。

その後、昭和四十年 停年退官されるまで、倫理学教室の教授として三十五年の長きにわたり、教育と研究に専念され、その深奥な学識と温厚篤実な人格を以て、多くの英才を養成されました。その門下生は、現在、全国の大学研究機関で活躍しております。

また先生は、被爆者としての体験から、人類愛に基づく平和運動を推進され、力の文化ではなく、慈の文化を力説され、シユバイツァー博士などともに平和のために尽力されたことは、わが国のみならず、広く世界の心ある人々に感銘を与えております。

今ここに、幽明境を異にし、先生を惜しむの情、切なるものがあります。ここに、ご生前の功績をたたえ、清廉温雅なお人柄を偲び、深く哀悼の意を表します。

先生の御霊が永遠に安からんことを祈念して、お別れの言葉といたします。

（文学部倫理学講座 新本豊三）